

【巻末資料】

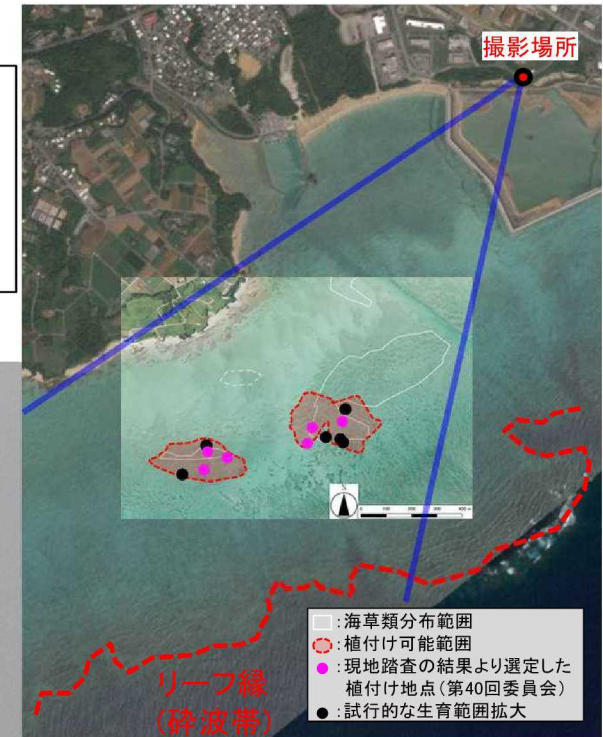
- 1.台風11号接近時(令和4年9月)の状況について
- 2.現地実証試験の実施/モニタリング結果/嘉陽海域

1.台風11号接近時(令和4年9月)の状況について

○豊原海域の台風11号接近時の状況について

- ・台風11号接近時(令和4年9月)の豊原海域の状況を示す。
- ・リーフエッジ付近において砕波が発生していた。
- ・また、リーフ内において風浪に伴う白波、河川からの濁水流入や底質の巻き上げによる濁りがみられた。

豊原海域状況(撮影日時 9月4日 17:50)



リーフエッジ付近での砕波



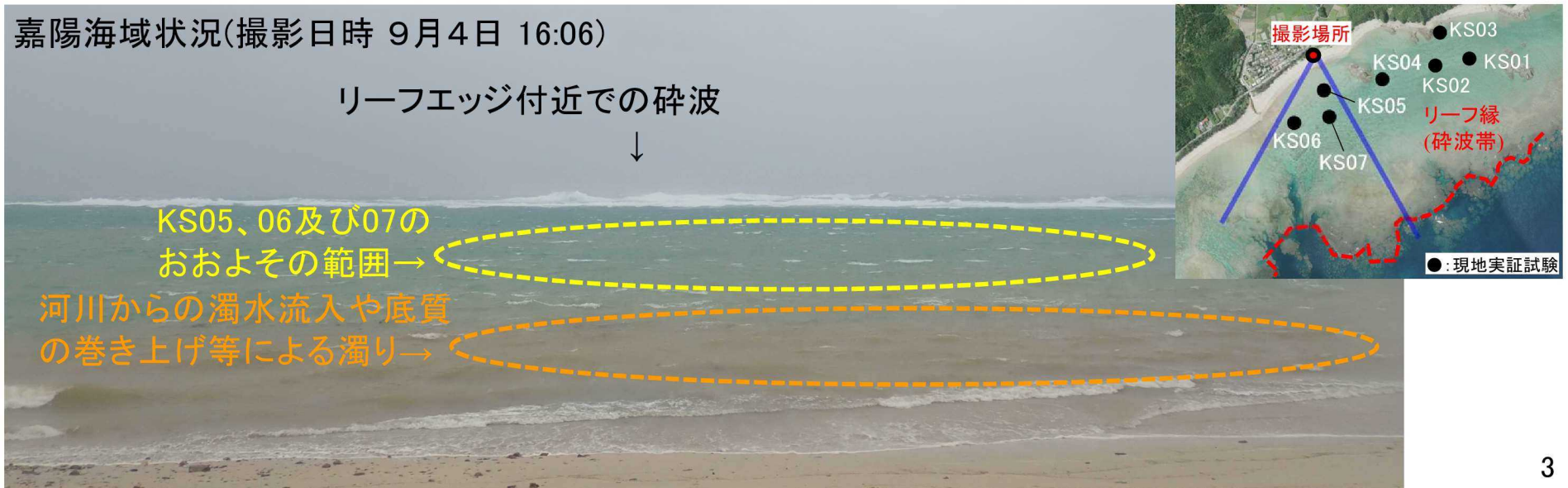
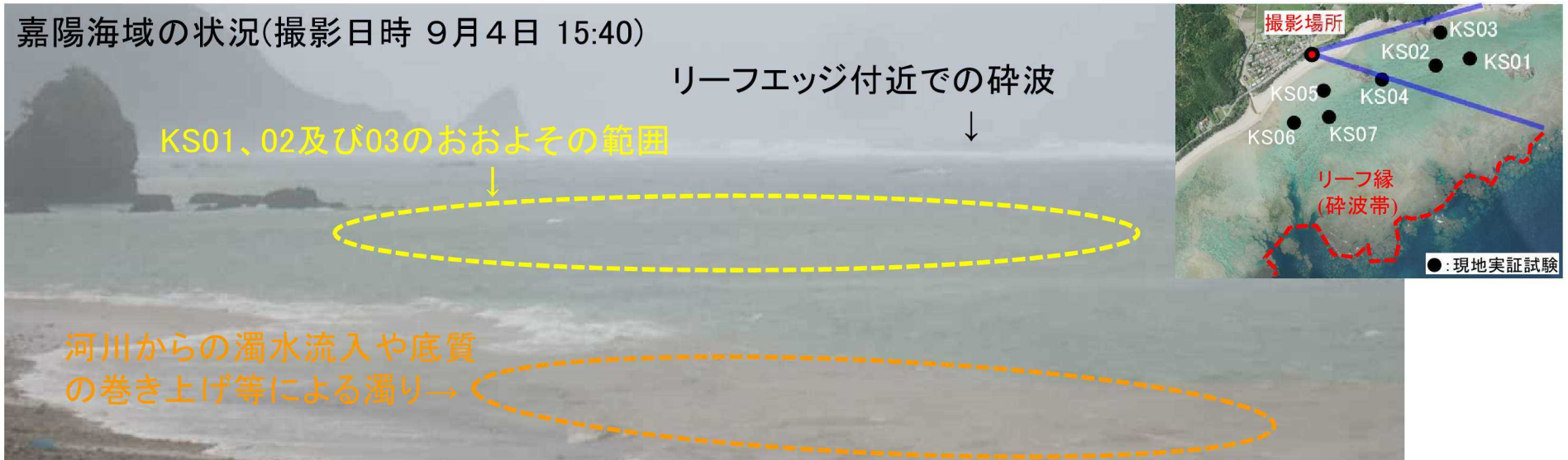
植付け可能範囲及び試行的な生育範囲拡大地点
のおおよその位置

河川からの濁水流入や底質
の巻き上げ等による濁り↓



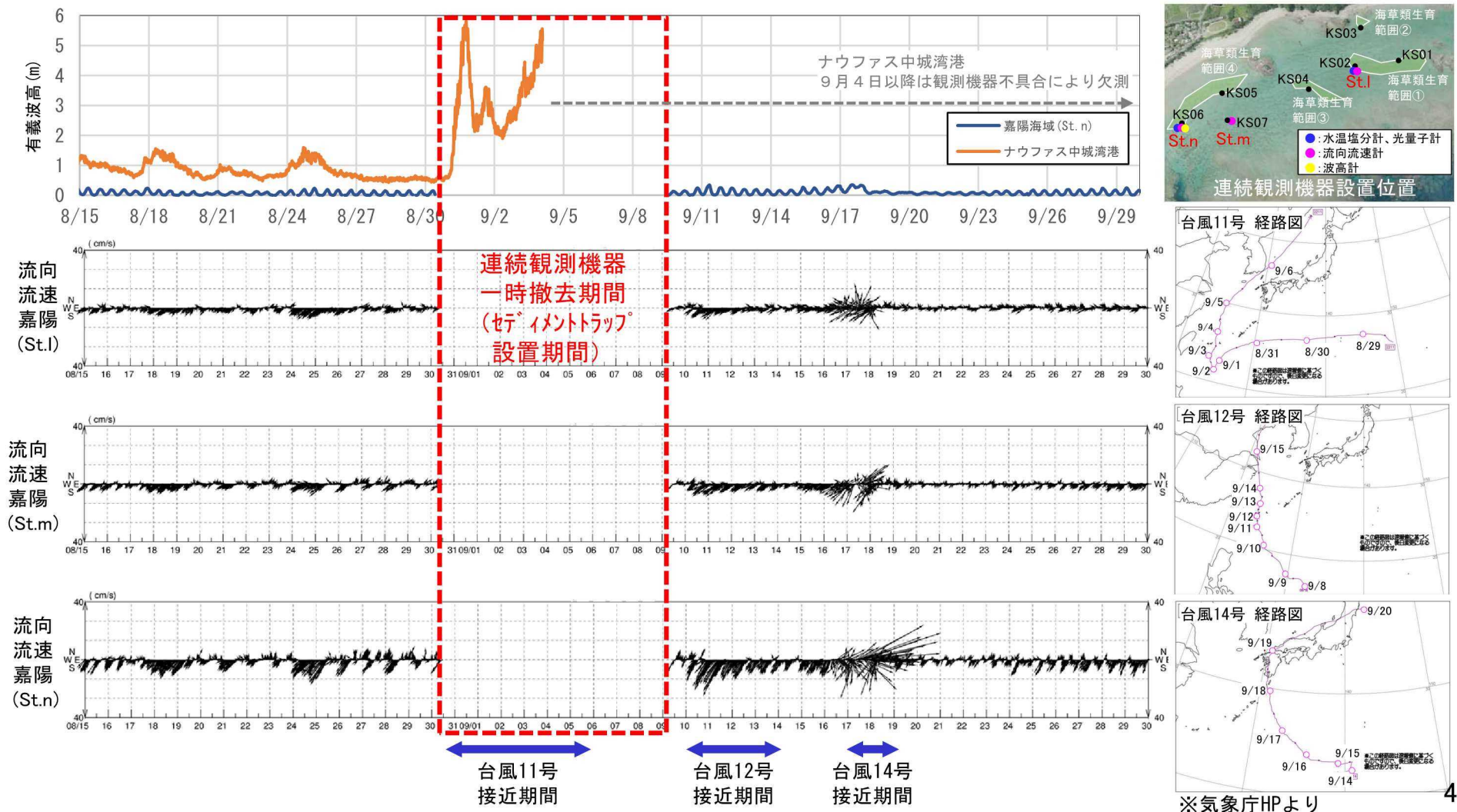
○嘉陽海域の台風11号接近時の状況について

- ・台風11号接近時(令和4年9月)の嘉陽海域の状況を示す。
- ・リーフエッジ付近において碎波が発生していた。
- ・また、リーフ内において風浪に伴う白波、河川からの濁水流入や底質の巻き上げによる濁りがみられた。



○嘉陽海域における有義波高及び流向流速の連続観測結果について

- ・台風11、12、14号接近時(令和4年8月下旬～9月中旬)の、嘉陽海域における有義波高及び流向流速の連続観測結果を下図に示す。
- ・嘉陽海域の有義波高は、台風12号接近時の9月11日に最大0.34m、14号接近時の9月17日に最大0.35mであった。また、ナウファス中城湾港の有義波高は、台風11号接近時の8月31日に最大5.81mであった。
- ・なお、台風11号接近に伴う連続観測機器の破損・流失を防止するため、8月30日～9月9日の期間に同機器を一時的に撤去し、セディメントトラップを設置して高波浪による海底面への影響を把握することとした(資料5 p.9参照)。



2. 現地実証試験の実施/モニタリング結果 嘉陽海域

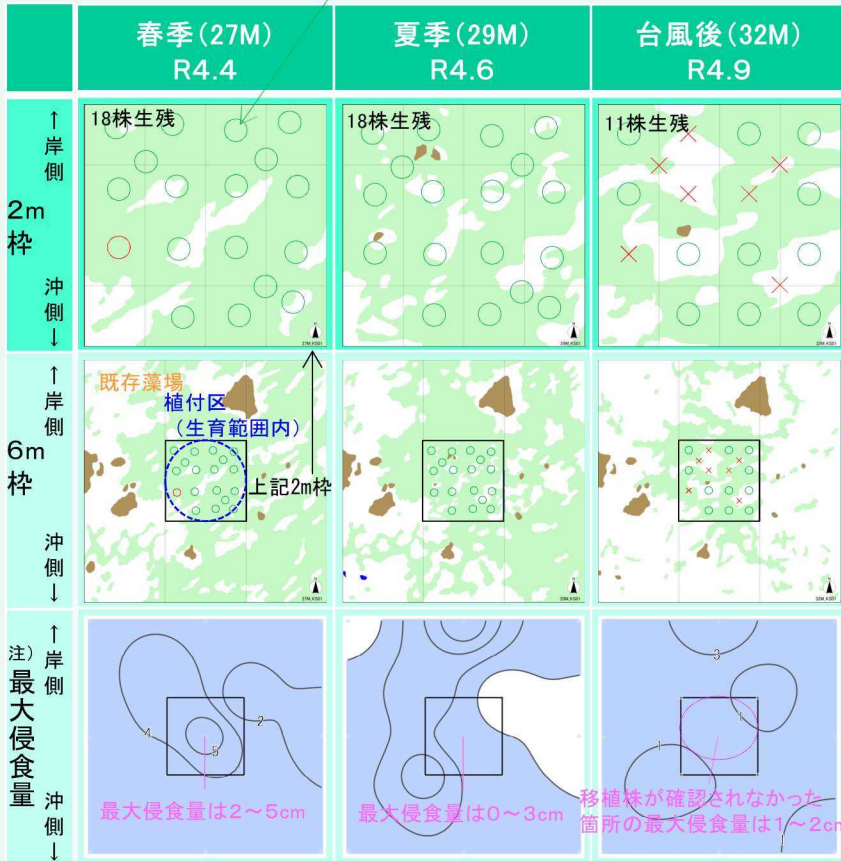
○モニタリング結果(生育調査)

<KS01> (水深D.L.-1.2m)

- ・台風後(32M)の目視による生残株数は、11株であった。
- ・台風後(32M)の2m枠内の最大侵食量は1~2cm、移植株が確認されなかった箇所は1~2cmであった。

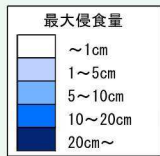
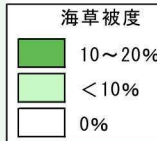


既存の海草と区別がつかない株



注)最大侵食量: 前回調査時からの侵食量

【凡例】



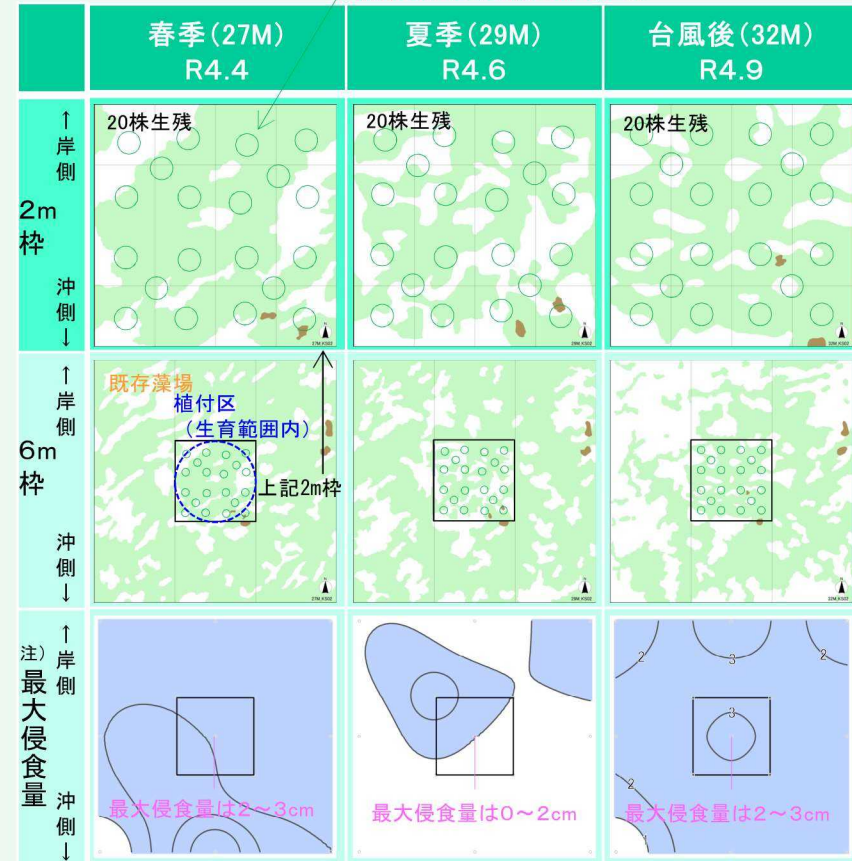
- : 継続的に確認された移植株
- : 再確認された移植株
- ×: 確認されなかった移植株



<KS02> (水深D.L.-1.2m)

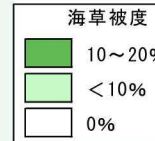
- ・台風後(32M)の目視による生残株数は、20株であった。
- ・台風後(32M)の2m枠内の最大侵食量は2~3cmであった。

既存の海草と区別がつかない株

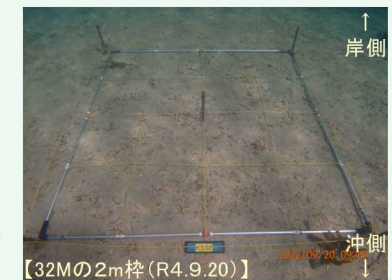


注)最大侵食量: 前回調査時からの侵食量

【凡例】



- : 継続的に確認された移植株
- : 再確認された移植株
- ×: 確認されなかった移植株



○モニタリング結果(生育調査)

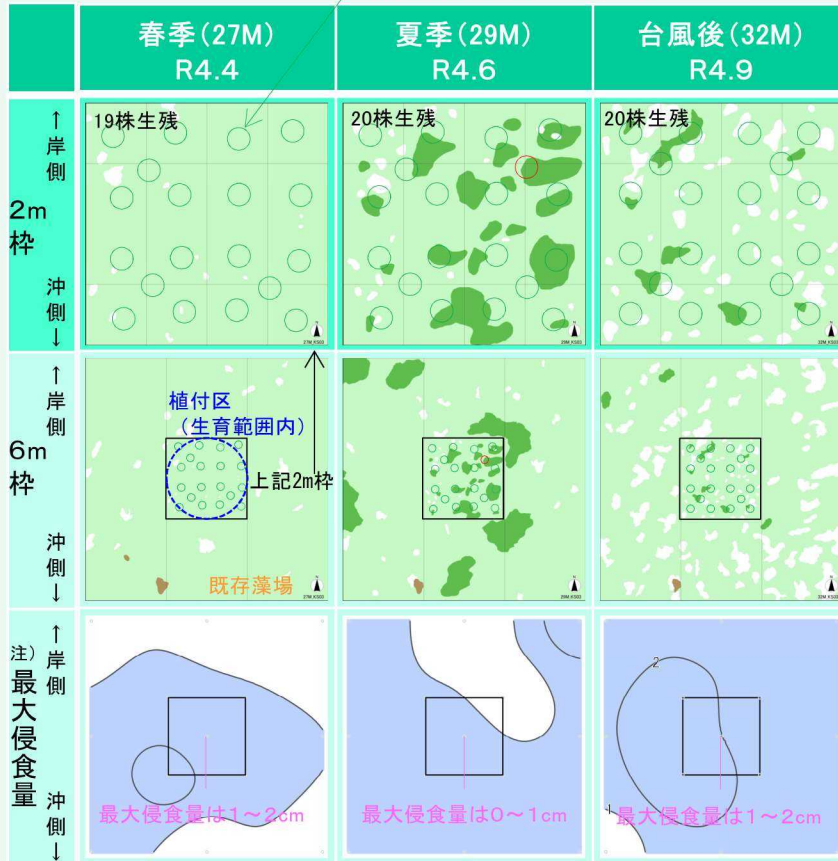
<KS03> (水深D.L.-1.0m)

- ・台風後(32M)の目視による生残株数は、20株であった。
- ・台風後(32M)の2m枠内の最大侵食量は1~2cmであった。



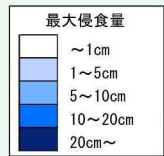
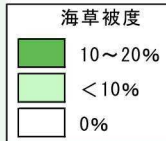
<KS04> (水深D.L.-1.3m)

- ・台風後(32M)の目視による生残株数は、1株であった。
- ・台風後(32M)の2m枠内の最大侵食量は2~5cm、移植株が確認されなかった箇所は2~3cmであった。

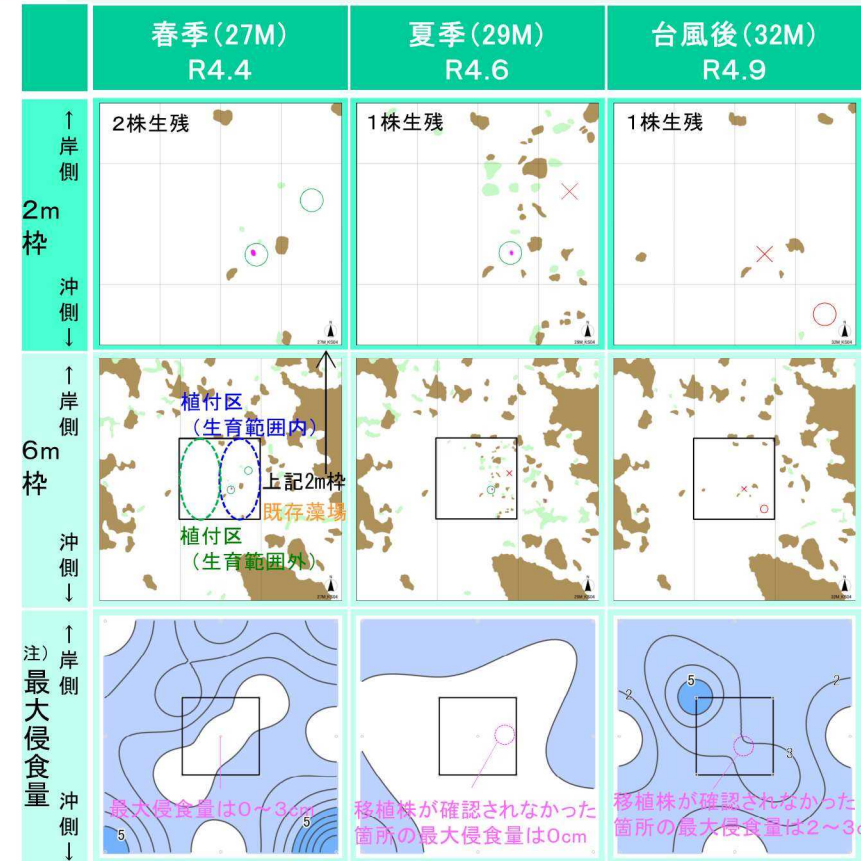
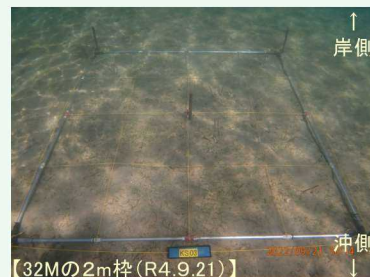


注)最大侵食量:前回調査時からの侵食量

【凡例】

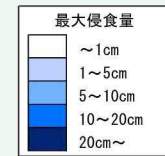
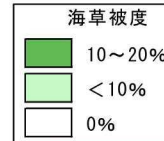
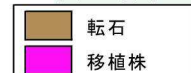


- : 継続的に確認された移植株
- : 再確認された移植株
- ×: 確認されなかった移植株

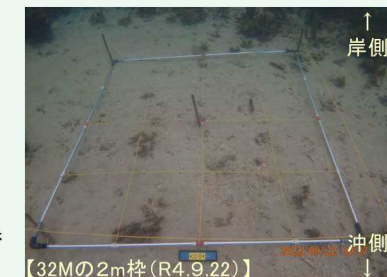


注)最大侵食量:前回調査時からの侵食量

【凡例】



- : 継続的に確認された移植株
- : 再確認された移植株
- ×: 確認されなかった移植株



○モニタリング結果(生育調査)

<KS05> (水深D.L.-1.1m)

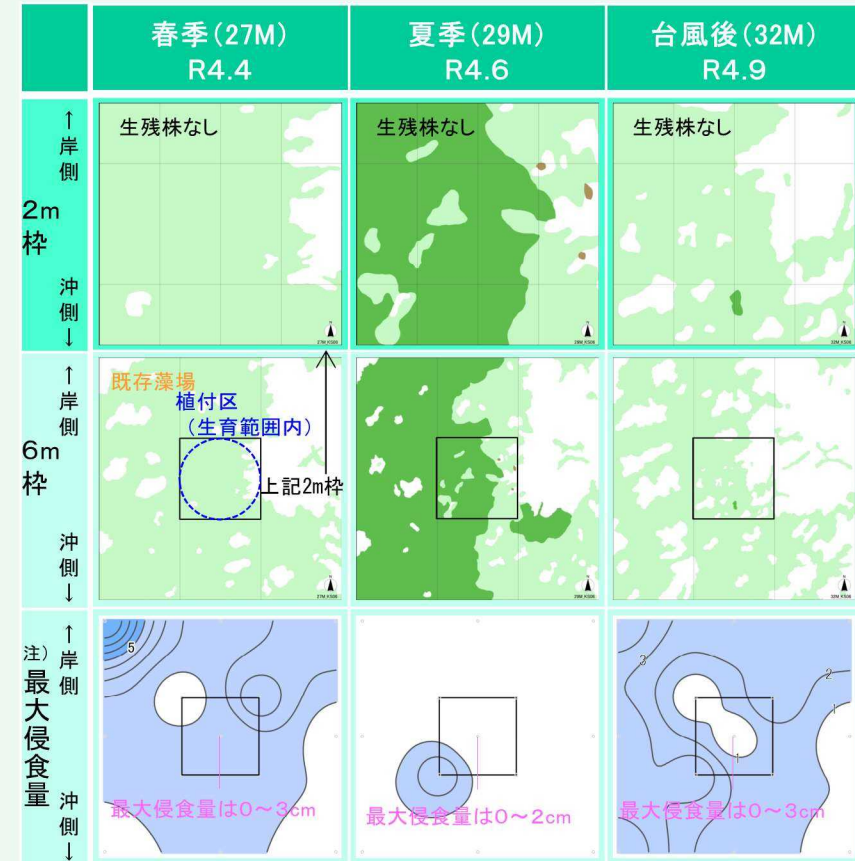
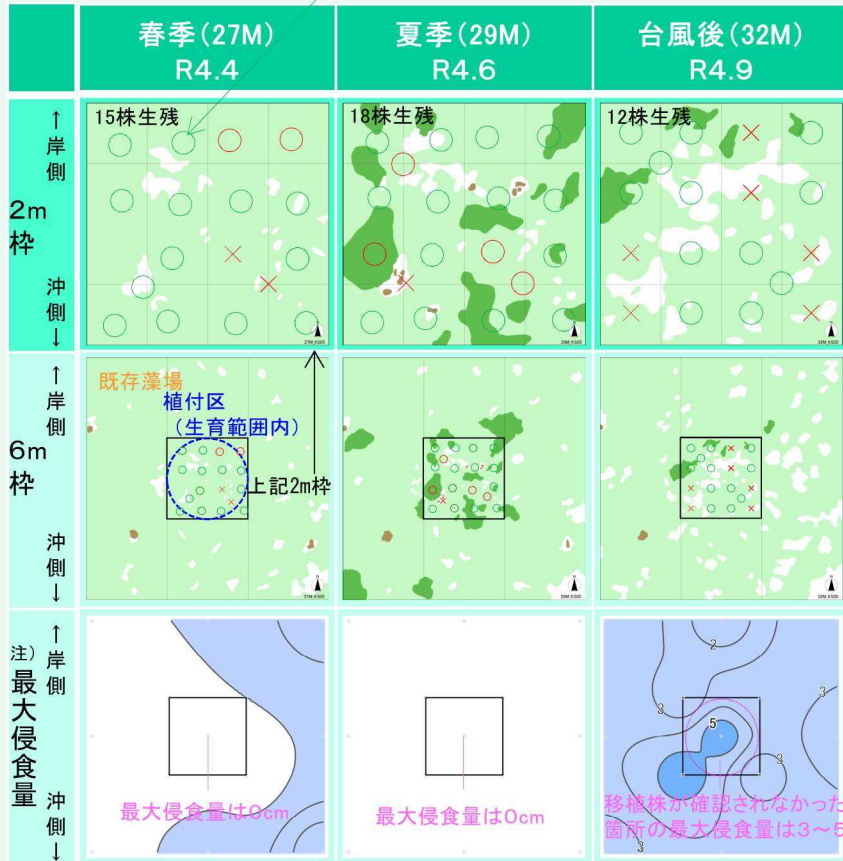
- ・台風後(32M)の目視による生残株数は、12株であった。
- ・台風後(32M)の2m枠内の最大侵食量は2~5cm、移植株が確認されなかった箇所は3~5cmであった。

既存の海草と区別がつかない株



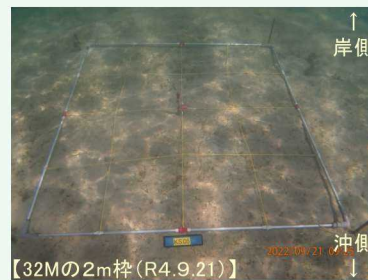
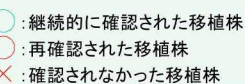
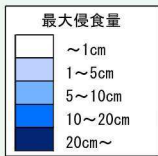
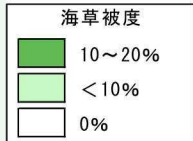
<KS06> (水深D.L.-1.0m)

- ・台風後(32M)の目視による生残株数は、0株であった。
- ・台風後(32M)の2m枠内の最大侵食量は0~3cmであった。



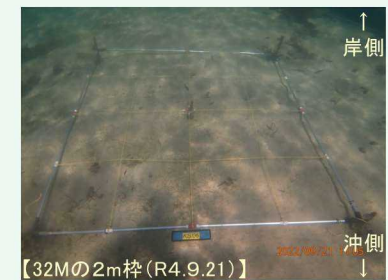
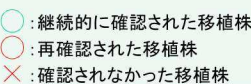
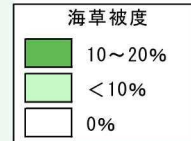
注)最大侵食量: 前回調査時からの侵食量

【凡例】



注)最大侵食量: 前回調査時からの侵食量

【凡例】

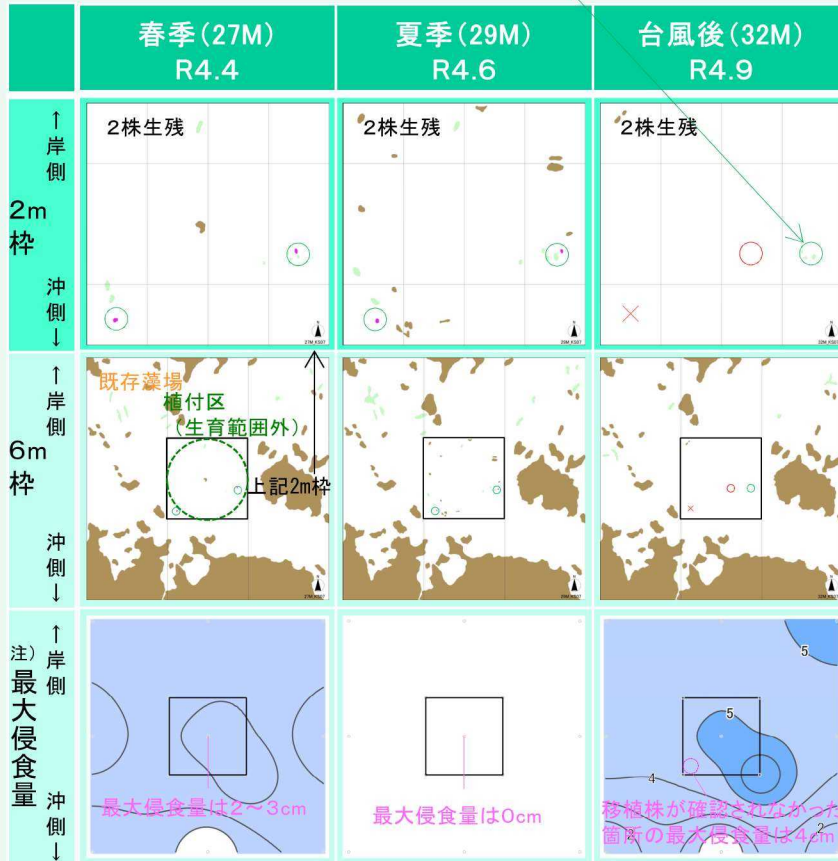


○モニタリング結果(生育調査)

<KS07> (水深D.L.-1.3m)

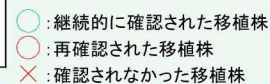
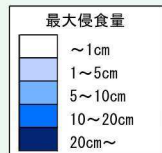
- ・台風後(32M)の目視による生残株数は、2株であった。
- ・台風後(32M)の2m枠内の最大侵食量は4~6cm、移植株が確認されなかった箇所は4cmであった。

既存の海草と区別がつかない株



注)最大侵食量: 前回調査時からの侵食量

【凡例】



モニタリング結果（水温・塩分）

・台風後(32か月後モニタリング)の各地点の水温は29.0～29.3℃、塩分は34.1～34.2であった。

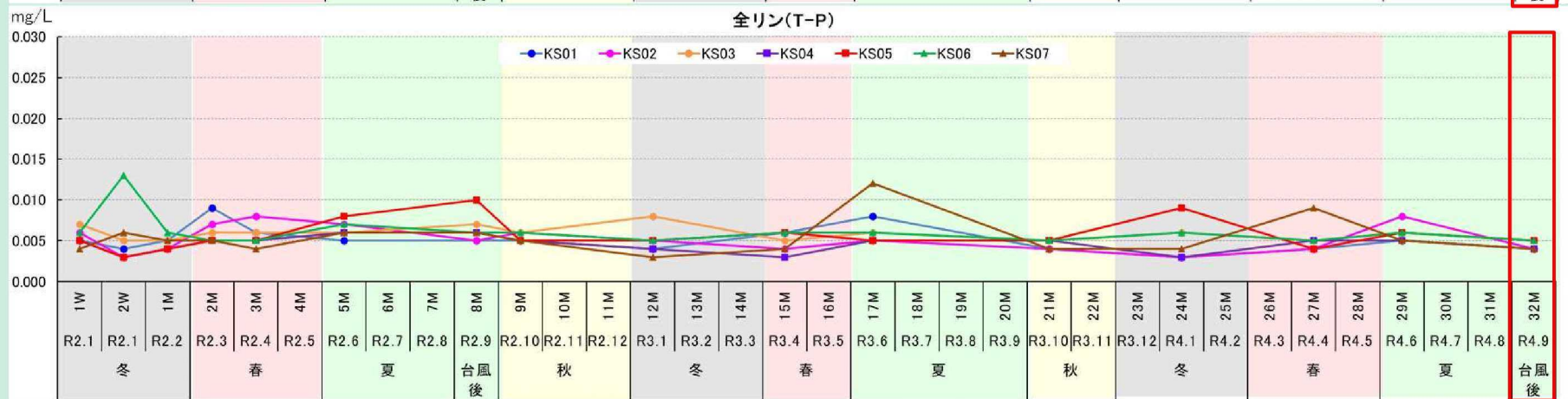


□ : 今回報告



モニタリング結果（全窒素・全リン）

・台風後(32か月後モニタリング)の各地点の全窒素は0.05~0.09mg/L、全リンは0.004~0.005mg/Lであった。



□ : 今回報告

